第9期北海道総合開発計画

北海道総合開発計画は、北海道開発法に基づき、北海道の資源・特性を活かして我が国が直面する課題の解決に貢献するとともに、地域の活力ある発展を図るため、国が策定する計画です。

第9期北海道総合開発計画（令和6年3月閣議決定。以下、9期計画）では、北海道が我が国に貢献するための土台を固め、北海道の価値を更に高めるため、「我が国の豊かな暮らしを支える北海道 ～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」と「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造 ～生産空間の維持・発展と強靱な国土づくり」の2つの目標を設定しています。

そして、計画の推進にあたっては、官民の垣根を越えた「共創」や戦略的・計画的な社会資本整備等の取組を通じて計画の実行性を高めていくこととしています。

十勝は、高い食料供給力、自然環境や景観等の魅力的な観光資源、脱炭素の取組やバイオマスの活用など課題を解決するポテンシャルがあります。

帯広開発建設部は、9期計画に掲げる目標の達成に向けて、十勝のポテンシャルを最大限発揮すべく、農林水産業の競争力・付加価値の向上、管内の交通物流ネットワークの強化を図り、近年激甚化・頻発化する自然災害、切迫する日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の発生等に備え、治水・道路・農業における防災・減災、国土強靱化の推進により災害に強い地域づくりの構築を、関係者と連携を図り、所管する業務を確実に進めていきます。

計画の目標

計画期間：2024年度からおおむね10年間

近年の社会環境の変化、北海道のポテンシャル等を踏まえ2050年の長期を見据えて、北海道開発を効果的に進めていきます。

2050年の北海道の将来像

- 食、観光、脱炭素化等の北海道の強みを活かした産業が国内外に展開し、豊かな北海道が実現することで、我が国の経済安全保障に貢献している。
- デジタルの実装により、北海道内の地方部における定住・交流環境が維持されるとともに、国内外から人を魅きつける多様な暮らし方が実現している。

北海道が我が国に貢献するための土台を固め、北海道の価値を更に高めるため、以下の2つの目標を設定します。

目標1：「我が国の豊かな暮らしを支える北海道 ～食料安全保障、観光立国、ゼロカーボン北海道」

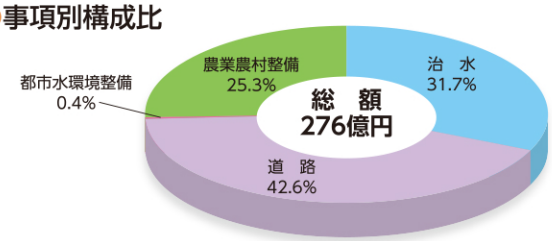
目標2：「北海道の価値を生み出す北海道型地域構造 ～生産空間の維持・発展と強靭な国土づくり」

令和8年度 帯広開発建設部事業費総括表

事　　項	事　業　費
治　　水	8,749百万円
道　　路	11,730百万円
都市水環境整備	101百万円
農業農村整備	6,977百万円
計	276 億円

※1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。
※2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

事項別構成比



※四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

防災に関する地域支援

職員派遣による支援

TEC-FORCE（Technical Emergency Control Force）

テックフォースとは「緊急災害対策派遣隊」のことです。

近年激甚化する大規模な自然災害に際して、被災状況の把握や被災地の早期復旧のための技術的支援など、被災した地方自治体等の災害復旧を支援します。

令和7年9月に、帯広開発建設部から浦幌町へTEC-FORCEを派遣するなど、国土交通省が一丸となって被災地域の1日も早い復旧活動を支援しています。

被災状況調査（浦幌町）

リエゾン（Liaison）

リエゾンとは「現地情報連絡員」のことです。

大規模な災害が発生した場合、又は発生のおそれがある場合に地方自治体等に職員を派遣し、(1)災害情報や開発局への支援要望等の情報収集、(2)災害情報の提供、(3)災害対策用機械など、支援資機材等に関する連絡調整を行います。

帯広開発建設部では、令和7年2月の大雪対応時に、帯広市へ職員を派遣し支援活動を行いました。

リエゾン活動状況（帯広市）

災害対策用機械による支援

災害時の緊急対応や情報通信手段の確保のための各種災害対策用機械を配備し、災害時には速やかに出動します。これらの災害対策用機械は地方自治体等の要請に基づき貸与することが可能です。

令和7年9月20日からの前線と低気圧の通過により北海道初の線状降水帯が発生するなどの大雨となった際には、浦幌町及び豊頃町に排水ポンプが出動し、緊急排水作業を行いました。

このほか、地域の防災意識の向上を目的として、防災訓練や防災教育の場で災害対策用機械と災害時の支援活動について説明を行っています。

排水ポンプ車による排水作業（浦幌町）

帯広工業高校での災害対策用機械を用いた防災教育
（写真左から照明車、対策本部車、衛星通信車）